



TITLE:

手術方法ノ研究

AUTHOR(S):

CITATION:

手術方法ノ研究. 日本外科宝函 1934, 11(2): 484-485

ISSUE DATE:

1934-03-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/203442>

RIGHT:

ノデアル。本例ハ現病歴ニ於テ膽石症ヲ思ハシメルガ如キ定型の症狀ヲ缺キ、又腫瘤ガアマリニ硬ク且ツ表面粗大凹凸のニ觸レタ事等ガ惡性腫瘍ヲ思ハシメタモノデアル。鏡檢上デハ腺乳嘴腫デアルガ近ク腺細胞癌トナル運命ノモノデアルカラ臨床上惡性腫瘍ト取扱ツテ差支ヘ無イモノデアル。(昭和8年12月20日京都外科集談會席上ニテ標本供覽)

遊走腎ニヨル幽門狹窄ノ1例

宮 司 克 己

患者ノ51歳ノ女。主訴 幽門部通過障礙。諸檢査ノ結果幽門部ニハ何等認ム可キ變化ヲ證セザリシモ右腎ハ著シクモ遊走性ナリシヲ以テ此ノ幽門部通過障礙ハ遊走腎ニヨル壓迫症狀ナラント考ヘ居タリ。然ルニ手術所見(超腹膜腎切開法ニヨル)ハ之ト相違セリ。即チ右腎ノ下降ニ從ヒ後腹膜モ亦下方ニ移動シ比較的強靱ナル Lig. hepatoduodenale ノ抵抗ト相俟ツテ十二指腸一ハ強キ牽引ガ加ハリ其ノ爲ニ十二指腸ハ屈曲シ。茲ニ始メテ幽門部通過障礙ヲ惹起セル事明白トナリタリ。

手術方法ノ研究

腦下垂體手術治驗例

高 安 彰

患者 36歳 女(入院昭和8年10月25日)。

現病歴 約6年前ヨリ肩ガコリ始メ、次第ニ頭痛ガ強クナリ現在ハ睡眠モ妨ゲラレル。同時ニ何時トハナク手足ノ骨組變リ大トナリ、又下肢ニ男ノ如キ濃キ毛髮發生シ、又著明ナコトハ顔貌一變シ、鼻頤唇等異常ニ大トナル。尙昭和5年カラ左眼ノ視力全ク障礙サレタガ、本年3月カラ稍々回復シ今度ハ右眼ガ障礙サレテ來タ。發病時頃カラ次第ニ記憶力思考力減退シ、腹立ち易クナリ、談話ニ際シ舌ノ運動意ノ如クナラヌコトガアルト云フ。月經ハ昭和5年カラ不順小量、6年以後全ク閉止ス。

現症 患者ハ定型の「 L アクロメガリー」デアル。尿ニハ特記スベキ所見ナク、食後糖尿ヲ證明セズ、血糖モ正常値ヲ示シテキタ。定型の兩側顯顳側半盲症ガ證明サレ、尙視神經ノ顯顳側萎縮が見ラレル。血液像ニ於テ「 L エオジン」嗜好細胞増加ヲ認メズ。藥力學的檢査ニ於テ「 L ビロカルピン」ニ對シ、異常ニ鋭敏。X線所見ニテ「 L 耳古鞍ハスベテノ方向ニ大ニナツテキル」が見ラレル。Pneumoencephalographic デハ腦水腫ヲ證明セズ、特記スベキ變化ナシ。腦壓ハ高く腦脊髄液ノ蛋白含有量ハ少シ増加シテ居ル。頭皮ニハ特有ノ皺襞ヲ認メル。

手術 (11月10日)「 L パントボン」注射及「 L ヌベルカイン」局處麻酔。底ヲ額ニモツ辨狀切開

(左側)ヲ加へ De Martel ノ装置ト線鋸デ前頭骨ヲ大キク取去リ、尙眼窩上蓋面迄又正中線近ク迄 Luer 氏鉗子デ骨切除ヲ行ヒ視野ヲ充分大トスル。次ギニ側腦室穿刺デ出來ル丈ケ、脊髄液ヲ除去シ、強ク頭ヲ懸垂サセル時ハ、腦ハ萎縮後退スル故、先ヅ出來ル限り、硬腦膜外ニ(前額腦ヲ押シャリツ、)腦下垂體ニ向ヒ進ム。前床上突起カラ約2釐ノ所デ硬腦膜ヲ切開、即チ硬腦膜内ニ進ム。コノ際腦挫傷ヲ防グタメ、綿花ヲ薄クノバシ食鹽水ニ浸シタモノヲ用ヒタ。腫瘍ハ半球狀、拇指頭大、外觀ハバセドー氏甲状腺腫ト類似シ帶紫赤色ニシテ左側ニ視神經ヲ伴フ。先ヅ右側ノ視神經及ビ交叉部ヲ觀ントシタガ認メ得ズ、銳匙デ少シ宛搔爬スル中、腫瘍ノ下カラ視神經現ル。土耳其鞍ノ内モ丁寧ニ搔爬シ、50%葡萄糖ヲ用ヒ充分止血シ、硬腦膜ノ1部ヲ閉ヂ、骨片ハモトニ戻シテ置ク。

術後経過 術後意識明瞭、翌日ヨリ頭痛嘔吐全クナク、尋常ニ談話スル。頭痛及ビ肩ノ緊張感が全ク消失スルト共ニ、視力ハ次第ニ回復シ40日後ニハ左眼ノ視野ハ術前ノ倍トナル(尙左側ハ手術時ノ挫傷ノタメカ殆ンド失明シタ)。又術後30日目「ピロカルピン」ニ對スル銳敏度ハ著シク減退シテキル。尙術直後尿量著シク増加シタガ3週後カラ平常ニ戻リ、眼瞼ニ腦脊髄液浸潤ニヨル浮腫ガ現レタガ、1週後自然ニ消失ス。

病理組織學的検査 若キ時期ニアル「エオジン」細胞ヨリ成ル腺腫。

患者ハ術後40餘日目退院ス。

診 療 瑣 談

Parrotsche Krankheit ノX線寫眞

稻 岡 福 二 郎

患者 生後3ヶ月ノ女兒。主訴 兩上肢ノ麻痺。(昭和8年12月15日入院)

現病歴 満期安産ナリシ、生後70日頃ヨリ兩側上肢ノ麻痺ヲ來セリ。Parrotsche Pseudoparalyse ノ疑ヒニテ、母親ノワツセルマン氏反應ヲ検査セルニ強陽性ヲ呈セリ。併セテ各關節部位ノX線撮影ヲ行ヒタル、兩側前膊骨前端及ビ兩側下腿骨下端ニ於テ黴毒性骨軟骨炎ニ特有ノ典型的像ヲ觀タリ。以上ト臨床の所見ヲ合セテ Parrotsche Pseudoparalyse ト診斷シ驅黴療法ヲ施セル、臨床上並ニX線寫眞上良好ナル経過ヲトリテ本年3月9日全治退院セリ。

注意スベキハ Parrotsche Pseudoparalyse ガ小兒麻痺ト誤ラレ易キコトデアル。此ノ際X線寫眞ハ重要ナル役目ヲ演ズル。爲ニX線撮影ハ各關節部位ニ於テ行ハレネバナラス。